

Mi tercer sitio, Argentina

Mayo cordobesa

¡Feliz primavera! 各地で桜の便りが聞こえ始め、いよいよ春到来ですね。皆さま、お変わりありませんか？花粉症と闘っている方も、少しずつ落ち着いてきた頃でしょうか。先日、「Latin-a」という雑誌のオンライン版で、「花粉症（Alergia al polen o kafunsho）」という記事を見付けました。スペイン語では”fiebre del heno”、英語圏では”hay fever”で表される「枯草熱」が花粉症に相当するアレルギーのようですが、日本ほど劇的な症状を発するものではないらしいです。なるほど、日本独特のものとして花粉症をスペイン語で説明できるようにならなければ・・・と時事的なことを考えていた今日この頃です。

それでは今回は、「Córdoba の人々と日本」についてのお話をご紹介します。

☆穏やかな街、Córdoba

私が過ごした Córdoba は、Buenos Aires から飛行機で1時間ほど北上したところにあるコルドバ州の州都で、アルゼンチンで2番目に大きな都市です。とは言っても、横浜や大阪のように近代的な大都市ではなく、例えば1613年に創立された、南米最古の大学の1つでありアルゼンチン国内では最古の大学であるコルドバ大学や、イエズス会が入植したときに建造した伝道所や集落跡など古い建物がたくさん残っています（これらは世界遺産に登録されています）。また、中心街にもたくさんの緑が溢れており、少し外れると広大な畑が広がっているなど自然も豊かな都市です。南緯31度とのことなので、反対側の北緯31度は日本と言えば本土最南端、鹿児島県の大隅半島（佐多岬）のあたりです。

そんな Córdoba で「日本」はどのように知られているのでしょうか？



写真：街の中心にある”Plaza San Martín” でチェスをする人々。大人気の娯楽です。

☆日本人は“ヒカ”？

ホストファミリーに、「学校では日本について何を習ったか」を聞いたところ、「東京はすごく大きな都市だということと、広島に原爆が落とされたということだけ。あとは、ものすごく遠い国だってこと（笑）。」とのことでした。（えっ、それだけ??）と思いましたが、よく考えたら私たちもアルゼンチンについて習ったこと（テストに出るキーワード）と言えば、「ラプラタ川、パンパ、ガウチョ、牛肉消費量が多い、イグアスの滝」くらいではないでしょうか。高校の地理で少し深く学ぶと、先のキーワードに「対蹠点（アンチポデス）、フォークランド紛争」が追加されるかも知れません・・・が、他にもあったらごめんなさい。

余談ですが、スペイン語の勉強を始めて以来、（そうだったのか!）と驚いた単語がいろいろあります。アルゼンチンのキーワードでもある「ラプラタ」は、片仮名4文字で1つの単語のように覚えていましたが、「定冠詞のラ+プラータ」で、しかも「銀」という意味だと知ったときにはびっくりしました。

さて、学校の授業では東京と広島しか習わないとのことでしたが、ほどなくして私は、日本は Córdoba の皆さんの生活に深く関わっていること、そして皆さんがとても親近感や感謝の気持ちを持ってくださっていることを知ります。

ボランティア先や町のパン屋さん、ショッピングセンターの雑貨屋さんなど、行く先々で私が日本人だとわかると、まず聞かれたことは「留学生？」でした。日本人は若く見るとは言え、私が学生だったのは20年も前のことなのですが・・・。「いえいえ、私は働いていますよ。」と言うと、次に聞かれた質問が「じゃあ、ヒカね？」です。

ヒカとは何でしょう??

☆ 学校で習う日本と、実生活の中の日本

家に帰って、「私が日本人だと言ったら、『ヒカ?』と聞かれたのだけれど、ヒカって何？」と聞くと、「えっ、日本人なのにヒカを知らないの?!」と、非常に驚かれました。「ヒカを知らないなんて・・・。でも、ヒカは海外で活動しているから日本国内では知られていないのかもね。」とショックを受けているようでもありました。

「ヒカから来た日本人は、花の栽培とか野菜の作り方とか、他にも技術をたくさん教えてくれているんだよ。ヒカのお陰で私たちは花を栽培する方法を学んだし、それで生活できるようになった人もたくさんいる。私たちはヒカに助けられていて、本当に感謝しているの。」と言われて初めて理解した私が、「あっ！ジャイカ?!」と言いながら紙に

「JICA」と書くと、「そうそう！もちろん知ってるでしょ？あ〜、よかったー！もしヒカが日本で知られていなかったら悲しい。」と。

そうです、スペイン語で「JI」は「ヒ」と発音することを知ってはいましたが、「ヒカ」という音（おん）と「JICA」が結び付かなかったのです。

児童養護施設に来ていた農業指導の先生はもちろんのこと、運動を教えに来る大学生や町の雑貨屋の店員さんなど、若い人たちも「ヒカ」の活動を知っていることがとっても嬉しかったです。同時に、JICA の皆さんが Córdoba 市民にこんなにも受け入れられて感謝されているということは、その活動内容もさることながら、絶対に隊員の皆さんのお人柄や熱心で真摯な行動などが支持されているということなんだろうな、と感銘を受けずにはいられませんでした。そして、“私”という日本人を通じて、先人が築き上げた「日本に対する信頼」を壊すようなことをしてはいけなと改めて思いました。

学校で習うことは僅かでも、実際の生活を通じて日本を身近に感じてくれるなんて、本当に嬉しいことですね！

今回も最後までお読みくださりましてありがとうございました。私は4月下旬から2週間弱ですが、Córdoba に“帰省”して参ります。ちょうど FERIA INTERNACIONAL DEL LIBRO 2019 (ブエノスアイレス国際書籍展) の期間中なので、Buenos Aires にも滞在して覗いてきます。たくさん買っちゃいそうです・・・。

☆番外編

アルゼンチンとは全く関係ないことで恐縮ですが、今年の2月に静岡県富士宮市にある酒蔵の見学に行きました。そのときに、酒米の田んぼに見事な「逆さ富士」が写っていました！私は富士山が大好きなので是非皆さまにもご覧いただきたく、この場をお借りしてご紹介します。

アルゼンチンの友人たちにも送ったところ、みんなこの景色に驚いていました。



Mayo